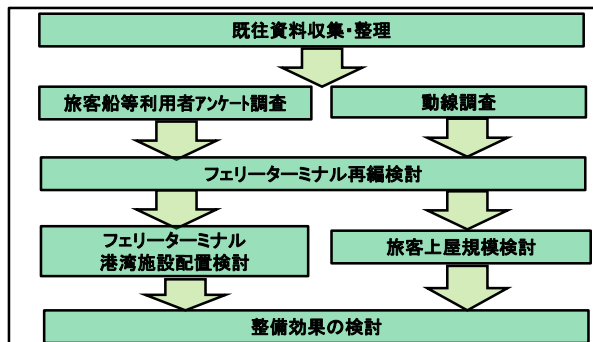


徳山下松港を中心とした地域活性化に係る基盤整備検討調査

○（調査の背景・目的）徳山駅とターミナルが近接している地理的特性を活かすため、駅やターミナル利用者の動線調査による現状把握、利用者や関係者等の意向や必要とする機能のアンケート調査を実施し、周南市のまちづくりに寄与する賑わいの創出にも繋がる港湾施設の利活用を踏まえ、ターミナルの再編計画の作成、ターミナルの核となるポートビル建替えの必要な規模等を検討する。

（調査の手順）



調査成果

（1）旅客船利用者のアンケート調査

- フェリーターミナル内の施設整備要望は、「桟橋や歩道のバリアフリー化」が最も多く、次いで「ベンチなどの休憩スペースの整備」が、「港を紹介するサインや案内標識の設置」が順に多い結果である。歩道や桟橋、港湾緑地の拡幅、「駐車場の整備」も全回答の6割以上を占める結果であった。
- 徳山ポートビルの現状の印象は、施設の老朽化・耐震、高潮や津波に対する安全・安心の対応に関する改善要望が高い結果となった。施設内の利用では、バリアフリー対応に関する改善要望も比較的高い結果となった。

（2）フェリーターミナル再編検討

①フェリーターミナル再編整備の概略配置（素案）の検討（図1）

- 基本機能の確保：交通結節点として、周防灘フェリーや大津島巡航の利用者の利便性や安全性を踏まえた、車両や人の動線を考慮してポートビルや駐車場などを配置。
- フェリー等の発着場の集約：周防灘フェリー、大津島巡航の発着場は現位置も含め、1つに統合する方向で検討。
- 徳山下松港のシンボルとしてのポートビルの配置：ポートビルの配置は、徳山駅（南北自由通路）からの利用を促すため、駅やポートビル相互からの眺望の確保、海とポートビルが近づくことから、海と島、コンビナートなどの夜景等、絶好の眺望ポイントとなる配置を検討。
- 賑わい・交流機能の確保、親水機能の確保：フェリー利用者や市民を対象としたイベント等に活用できる緑地として機能の確保、周辺緑地の利用を促すため、海の眺めを楽しみながら快適に散策できる親水空間として、市道臨港線「水辺の回廊動線」の利用等について検討。
- 駐車場スペースの確保：フェリーターミナルの現状入居者等へのヒアリング結果を踏まえ、必要な待機場や駐車場等のスペースを確保。

②フェリーターミナル再編整備案の作成（図2）

徳山下松港フェリーターミナル再編整備案の施設配置は、徳山ポートビルの改築位置、フェリー駐車・待機場までの大型車両等の動線を比較検討し、最も利便性や安全性に優れる既設ポートビル位置に建替える案を有力案として選定した。

③旅客上屋規模検討（図3）

徳山ポートビルの上屋必要規模の検討は、フェリーターミナル再編計画に必要な建物面積を算出するため、ポートビル現状利用者への説明、ヒアリングを実施し、ビル1階床面積を検討した。

（3）整備効果の検討

- 旅客者等の利便性・安全性の確保、港湾関係者の利便性の向上等、民間の活性化
- 「中心市街地活性化計画」と連携し、「市民に親しまれる憩い・賑わいの場」に寄与する賑わいの機能の確保等、地域経済への効果

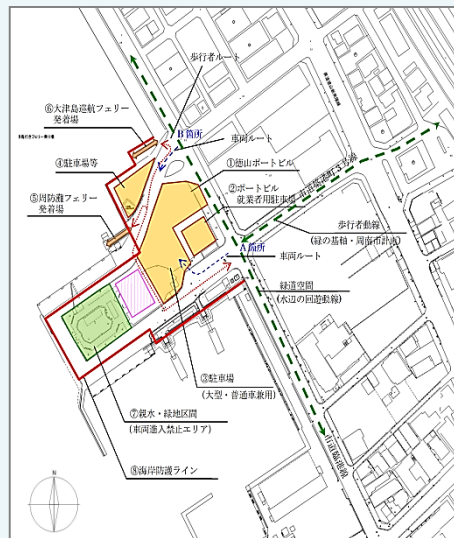


図1 フェリーターミナル再編整備の概略配置（素案）

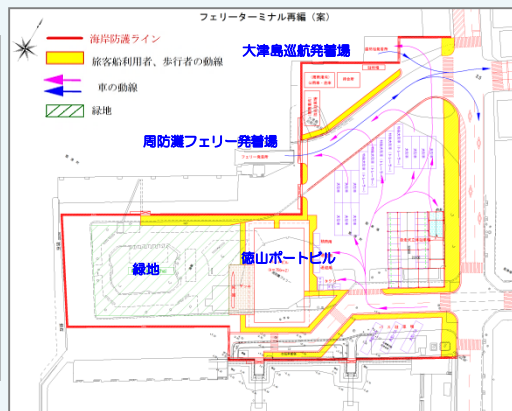


図2 フェリーターミナル再編案

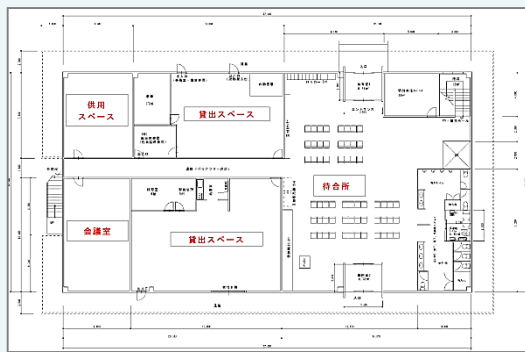


図3 徳山ポートビル1階（フェリー会社等のレイアウト案）

基盤整備の見込み・方向性

① 徳山下松港フェリーターミナル再編計画を基に、今後も継続して徳山ポートビルの状況に応じて検討を進める。ポートビルと既存緑地の一体的な利活用、海岸保全施設と展望機能の融合等、港湾施設の利活用に向けた具体について市や地元商工会議所と連携して検討を進めていく。平成27年度において、引き続き港湾施設の配置計画の詳細について検討を進めるとともに、平成28年度以降の再編整備に向けた対応についても検討する。

② 徳山ポートビル今後新規入居の募集やポートビルの賑わいの創出につながる様々な機能の確保に向け、市と県が連携して民間の入居を進め、建物規模を決定していく。あわせて、屋上の展望機能の確保や待合室のイベント利用や情報発信等、市や地元商工会議所と連携してポートビル規模の検討の中で対応していく。平成27年度において、引き続き建物位置や規模の検討を進めるとともに、建替えについては、平成27年度の検討状況を踏まえ、平成28年度以降の対応についても検討を進める。

今後の課題

フェリーターミナル再編計画や徳山ポートビルの施設規模等を詳細に詰めていく段階でソフト施策（緑地やポートビル等を活用したイベントやその情報発信などの企画・運営等）やハード施策（駅とフェリーターミナル間の連携を強化のために、市や民間による周辺の開発、周辺施設の一体的な利用が図られるよう周辺の公園・緑地等間の動線の強化等）、周南市と検討を進める必要がある。

徳山下松港を中心とした地域活性化に係る基盤整備検討調査			
調査主体	山口県		
対象地域	山口県周南市	対象となる 基盤整備分野	港湾

1. 調査の背景と目的

徳山下松港は山口県の瀬戸内海沿岸のほぼ中央に位置し、徳山下松港フェリーターミナルは九州を結ぶ内航フェリーや離島航路が就航する海の玄関口であるとともに、山陽新幹線徳山駅から約250mと近接している地理的特性がある。

現在、周南市では、駅南北を一体的に捉えたユニバーサルデザインや公共交通の利便性に配慮した誰もが使いやすい駅周辺施設の整備等による中心市街地活性化を図るため、新たな駅ビル建設を含む「徳山駅周辺整備事業」を進めている。

こうした中、徳山下松港フェリーターミナルにおける、昭和43年に建造されたポートビルの耐震化、栈橋などの港湾施設の老朽化やユニバーサルデザインへの対応、防災機能の確保等の対応が必要であることから、市が進める駅周辺のまちづくりと連携し、利便性や安全性に配慮したターミナルの再編計画に着手することとした。

本調査は、駅とターミナルが近接している地理的特性を活かすため、駅やターミナル利用者の動線調査により現状を把握するとともに、利用者や関係者等の意向や必要とする機能をアンケート調査し、市のまちづくりに寄与する賑わいの創出にもつなげるよう港湾施設の利活用を踏まえながら、ターミナルの再編計画を作成する。

また、ターミナルの核となるポートビルについては、入居希望者のヒアリング調査を基に、建替えに必要な規模等を検討する。



図1 徳山下松港フェリーターミナル位置図

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

調査は、下図の流れで行った。

① 既往資料収集・整理

徳山下松港フェリーターミナル再編に関連する周南市の上位・関連計画、徳山下松港のフェリー利用の現状、周南市の人口・産業、観光等の動向についてのデータを収集・整理した。

② 旅客船利用者の動線・意向調査

徳山下松港フェリーターミナルから徳山駅南口までの動線調査を実施し、人流の現状を把握した。また、対象範囲の現地踏査と旅客船等利用者、JR 徳山駅利用者、大型車両利用者、大津島島民等へのアンケート調査を行い、徳山下松港フェリーターミナルの利用目的・頻度、印象、利便性および施設整備の要望等について把握し、現状と課題を整理した。

③ フェリーターミナル再編検討

今回実施したアンケート調査等からの改善意見とその対応、周南市の計画（「徳山港周辺の基本的方向性、H20.3」）との整合に留意しつつ、旅客船利用者や車の動線、徳山駅との道路・歩道の連続性、海岸防護ライン等を考慮したフェリーターミナル再編案を検討した。さらに、旅客船上屋（以下、徳山ポートビル、と記す）については、関係主体（民間等）へのヒアリングを行い、必要規模、概略レイアウト案を作成した。

④ 整備効果の検討

フェリーターミナル再編整備による効果を民間の活性化の視点で検討した。

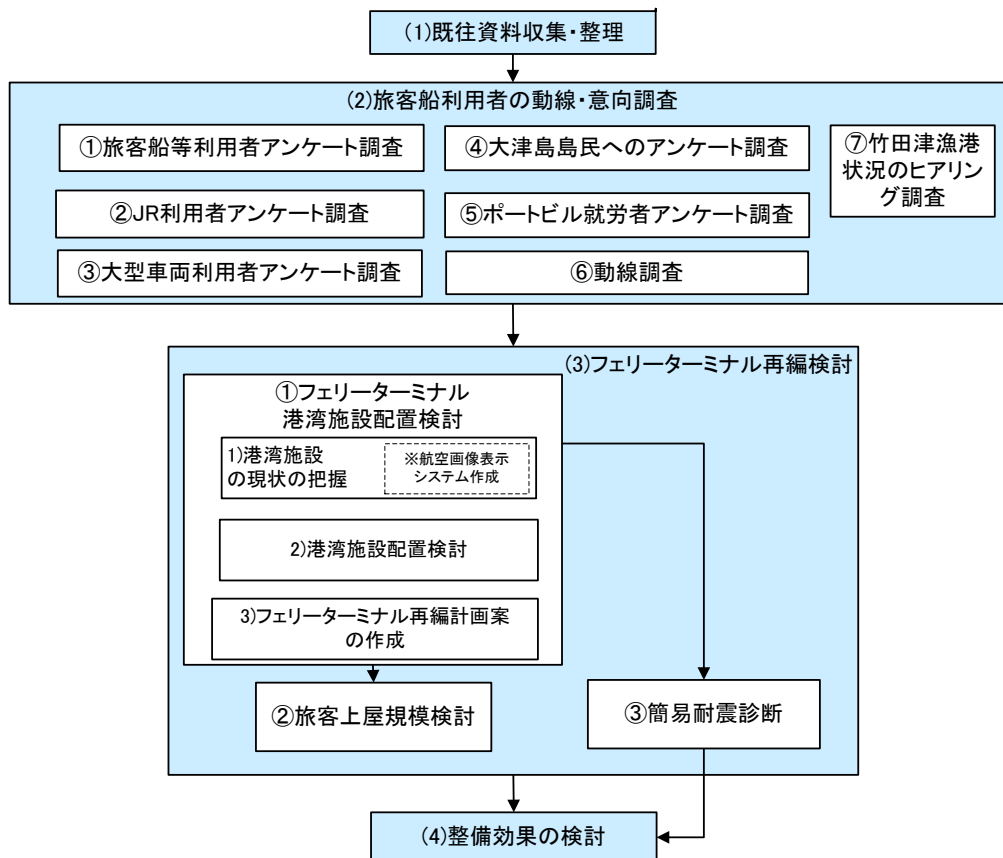


図 2 調査の手順

(2) 調査結果

① 既往資料収集・整理

現状の把握のため、周南市の動向、港湾貨物資料、旅客者や JR 利用者、観光客の状況等の基礎資料を収集整理した。

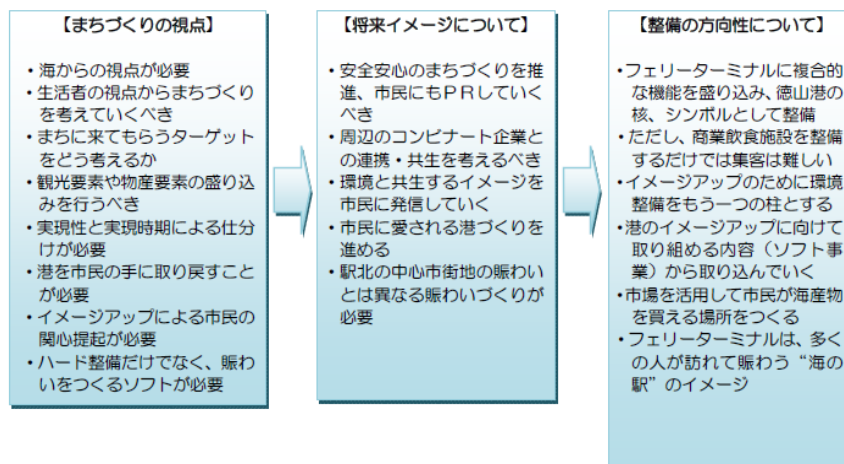
特に、フェリーターミナル再編計画は周南市のまちづくりを踏まえ検討する必要があることから、周南市中心市街地活性化計画（H25.3）により、中心市街地におけるまちづくりの理念と基本方針、活性化の取組みを整理した。

また、フェリーターミナルに近接する市に「徳山港周辺整備の基本的方向性（H20.3）」において実施された、市民アンケート調査、利用者アンケート調査、港を考える市民ワークショップなどで出された意見は、ターミナル再編整備に必要な課題が提案されている可能性が強く、当検討の参考とすることとした。

市民等アンケート調査や市民ワークショップでの主な意見は下記のとおり。

【アンケート調査での主な意見】	【市民ワークショップでの主な意見】
<p>■魅力を感じる場所 コンビナートの景色/海や島の景色/公共交通の利便性</p> <p>■問題を感じる場所 駅裏のイメージがある/立ち寄れる、行きたい施設がない/飲食できる場所がない</p> <p>■望ましい将来イメージ 多くの人が集まる/光あふれる明るい/緑豊かなイメージ</p> <p>■望ましい将来像 海産物を買ったり食べたりできる/夜景を楽しみながら飲食できる/景色を楽しみながら散策・休憩できる</p> <p>■環境整備の方向性 海や港に親しめる雰囲気づくり/海や港と調和する景観づくり/緑豊かな環境づくり/利便性の向上/バリアフリー</p> <p>■港、ターミナルに整備したらよい施設 飲食店/海産物等ショップ/公園緑地/展望台</p>	<p>■徳山港周辺の現状 ・海や港の眺望、整備中の港湾緑地等、優れた資源があるが、うまく活かしていない</p> <p>■集まって欲しい人 ・幅広い市民（周辺住民、子供連れファミリー、ビジネスマン、若者カップル等）に訪れてもらいたい ・観光客や遠方からのビジネス来訪者にも立ち寄ってもらいたい</p> <p>■望ましい将来像 ・きれいな港、おしゃれな港（イメージアップが必要） ・イベントに人が集まる、若者が集まる港 ・港らしい風景を楽しみ、散歩散策ができる ・夜の演出を行い、安全に夜景を楽しめる</p> <p>■環境整備の方向性 ・複合機能施設としてフェリーターミナルビルを整備 ・駅と港をつなぐプロムナードの整備 ・港公園を海の見える丘として整備 ・港湾緑地、遊歩道の充実 ・緑豊かで親しみやすい環境整備</p>

さらに、公・民連携まちづくり委員会も開催されており、まちづくりの視点や将来イメージ、整備の方向性等についての意見も参考とする。



なお、周南市計画（「徳山港周辺の基本的方向性、H20.3」）における徳山港周辺（徳山下松港フェリーターミナル周辺）の将来イメージとまちづくりとの連携の方向性は以下のとおりである。

下記方向性を踏まえ、当検討を進めることとした。

○徳山港周辺の目指すべき方向性

海と緑・憩いと賑わいが調和する交流拠点

～ 港のイメージアップに向けた 親しみと賑わいのある水辺空間づくり

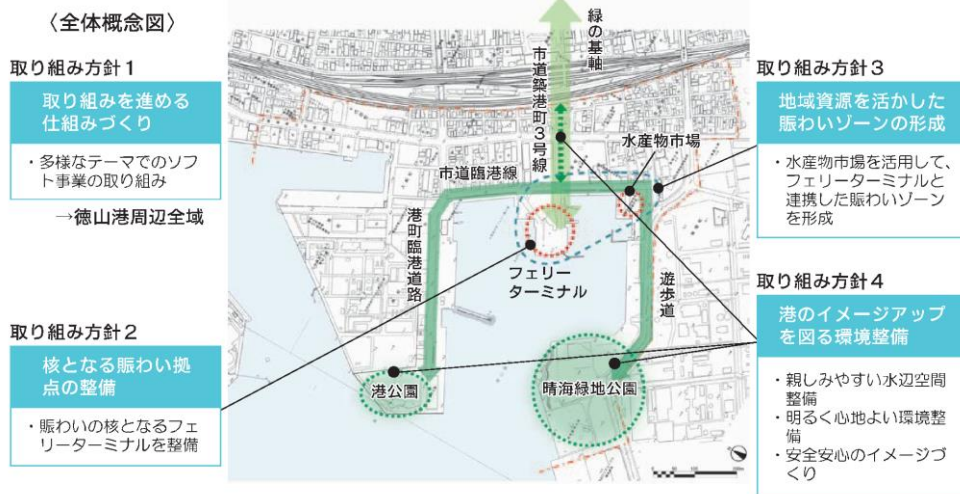
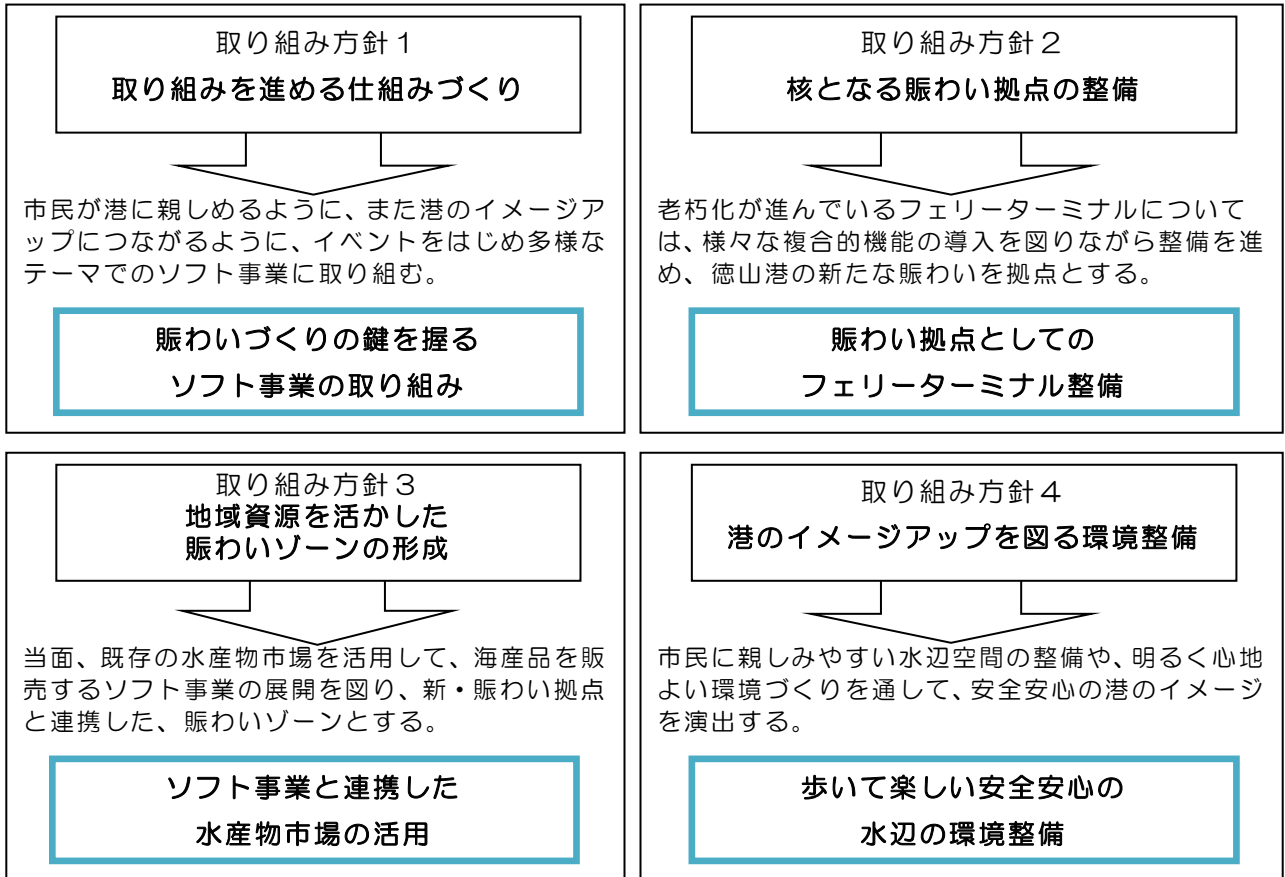


図 2 徳山港周辺（徳山下松港フェリーターミナル周辺）の将来イメージとまちづくりとの連携の方向性

② 旅客船利用者の動線・意向調査

1) 徳山下松港フェリーターミナル内の施設に関する改善要望

徳山下松港フェリーターミナル内の施設整備について、要望に関するアンケート結果は、以下のとおりである。

- ・ フェリーターミナル内の施設整備要望は、「棧橋や歩道のバリアフリー化」が 82.7%と最も多く、次いで「ベンチなどの休憩スペースの整備」が 74.8%、「港を紹介するサインや案内標識の設置」が 72.9%の順に多い結果である。
- ・ 「歩道や棧橋、港湾緑地の拡幅」「駐車場の整備」も全回答の 6 割以上を占める結果であった。

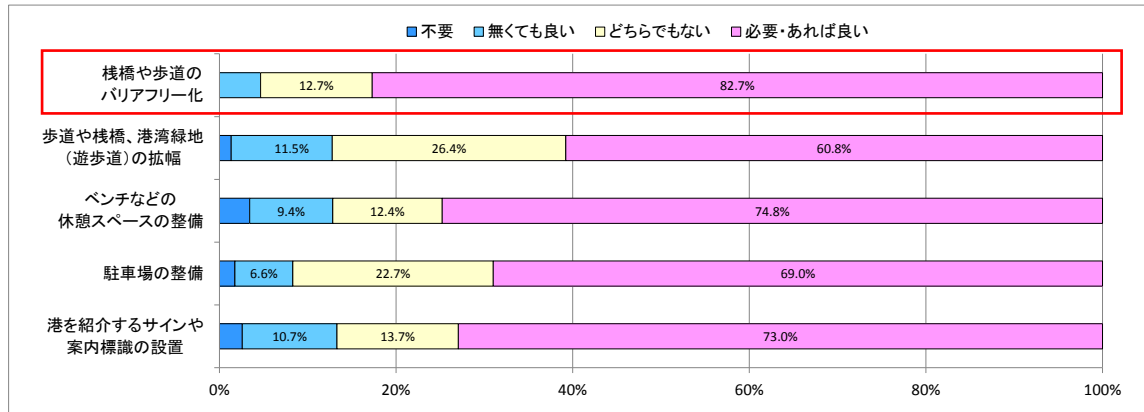


図 3 徳山下松港フェリーターミナル内の施設について

2) 徳山ポートビルに関する印象について

徳山ポートビルの印象についての改善要望に関するアンケート結果は、以下のとおりである。

- ・ ネガティブ意見（「そう思う」）は、「建物が古い」が 78.3%と最も多く、次いで、「台風や津波が心配」が 61.1%、「地震の時が不安」が 55.5%の順に多い結果である。ポートビル施設の老朽化・耐震、高潮や津波に対する安全・安心の対応に関する改善要望が高い結果となった。
- ・ 施設内の利用については、「トイレが狭い」が 50.4%、「出入口や室内の段差が多く危ない」が 42.9%で、バリアフリー対応に関する改善要望も比較的高い結果となった。

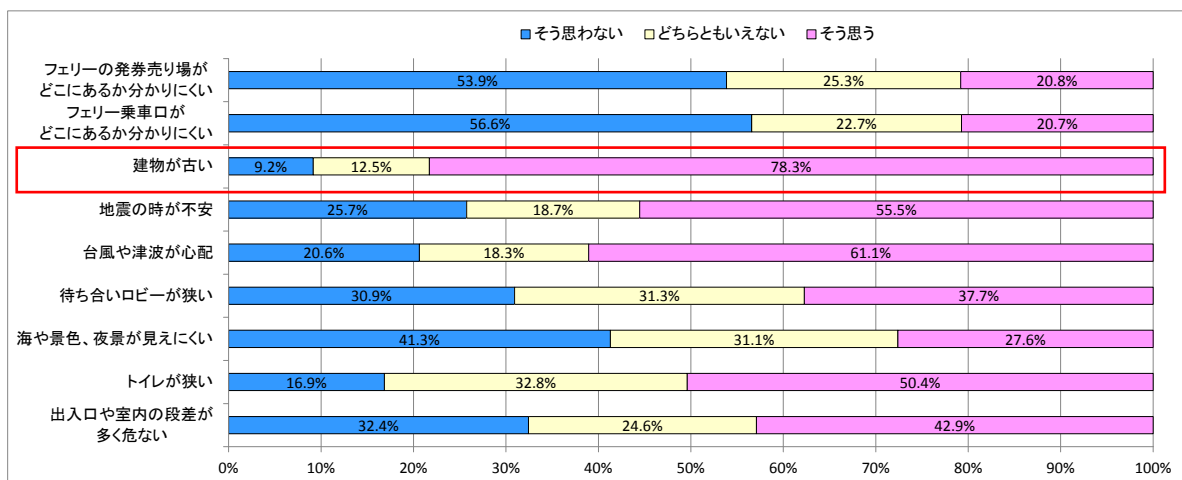


図 4 徳山ポートビルの印象について

③フェリーターミナル再編検討

1) フェリーターミナル再編計画案の作成

1)-1 作成方針

今回実施したアンケート調査と周南市が過年度に実施した徳山下松港に関するアンケート調査をとりまとめ、現状の徳山下松港およびその周辺に関する改善意見に対する対応案を検討し、必要な駐車場や待機場の確保（車の動線）、旅客船利用者等の動線（歩道）の確保、海岸防護ラインの配置、駅との連携（駅からの市道・歩道等の連続性や見え方）、既存緑地の利用等を考慮した。

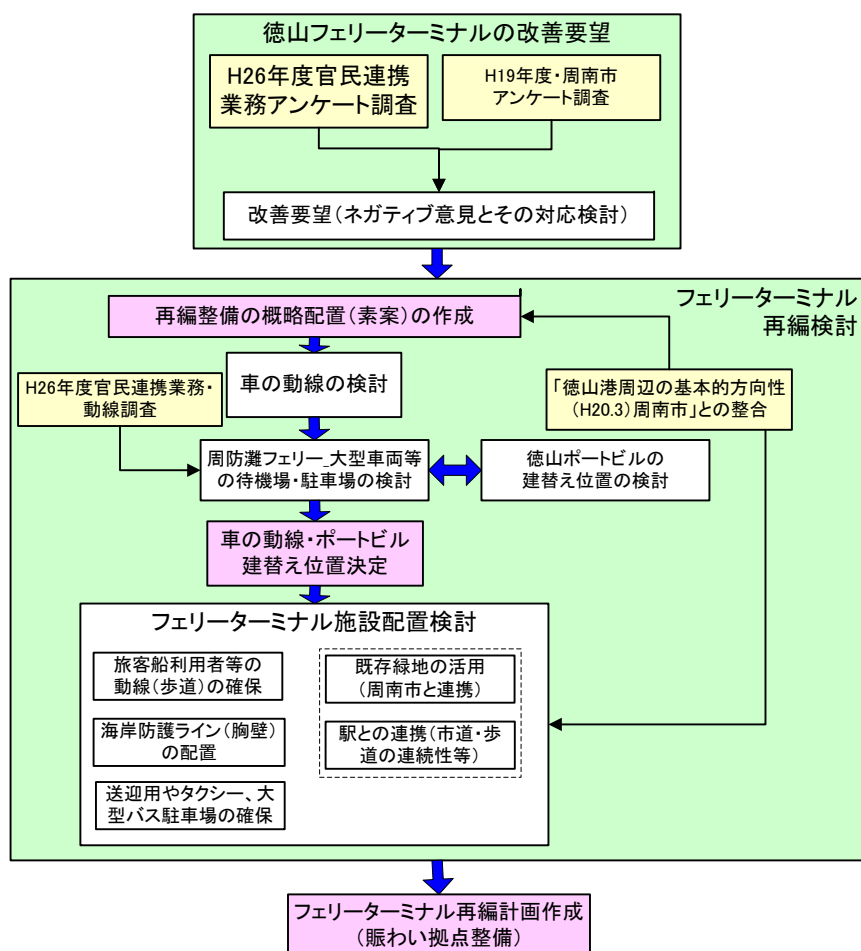


図5 フェリーターミナル再編検討フロー

1)-2 アンケート調査結果とその対応方針の検討

本調査で実施したアンケート調査結果および平成19年度に周南市が実施したアンケート調査結果より、徳山下松港フェリーターミナル、徳山ポートビルのハード面・ソフト面からの改善要望と対応を整理し、以下に示す。

- ・ ポートビルの老朽化、安全・安心やバリアフリー対応の整備要望に対し、ポートビル建替え、フェリーターミナル内施設の再編整備のニーズが高い結果となった。
- ・ また、フェリーターミナル周辺施設も含め、“賑わい・交流機能の創出”に関して、周南市（中心市街地活性化計画の具体化）と連携したハード面・ソフト面での整備が求められている。

1)-3 フェリーターミナル再編整備の概略配置（素案）の検討

徳山下松港フェリーターミナルの再編整備は、現在の入居者へのヒアリング結果、周南市のターミナル再編に関する意見書を踏まえ、以下の方針および条件で検討した。

○基本機能の確保

- ・ 交通結節点として、現在運航されている周防灘フェリーや大津島巡航の利用者（市民、観光客、大型車両運転手等）の利便性や安全性を踏まえ、ターミナル入口から発着場に至るまでの車両や人の動線を考慮してポートビルや駐車場などを配置する。
- ・ 車両（大型車両）の出入口は、A 箇所（市道築港町 3 号線から直進）と B 箇所（A 箇所から西へ約 100m）とし、交差点は右左折直線が安全に行えるよう検討する。
- ・ 歩道は、A・B 箇所からフェリーターミナルの港湾施設（歩道、駐車場、ポートビル、緑地、発着場等）への安全性を踏まえた動線を検討する。

○フェリー等の発着場の集約

- ・ 周防灘フェリー、大津島巡航の発着場は現位置も含め、1 つに統合する方向で検討する。大津島巡航は、現在、2 箇所に分散しているが、西側のフェリー発着場に集約する方向で検討する。

○徳山下松港のシンボルとしてのポートビルの配置

- ・ ポートビルの配置は、徳山駅（南北自由通路）からの利用を促すため、駅やポートビル相互から、眺望を確保できる位置が望ましい。
- ・ ポートビルの配置は、フェリー等の船舶事業者や利用者の利便性を考慮し、発着場に近い位置が望ましい。海とポートビルが近づくことから、海と島、コンビナートなどの夜景等、絶好の眺望ポイントとなることが期待される。

○賑わい・交流機能の確保、親水機能の確保

- ・ フェリー利用者や市民を対象としたイベント等に活用できる緑地として機能を検討する。
- ・ ポートビルと周辺緑地の利用を促すため、海の眺めを楽しみながら快適に散歩できる親水空間として、市道臨港線「水辺の回廊動線」の利用等について検討する。

○駐車場スペースの確保

- ・ フェリーターミナルの現状入居者等へのヒアリング結果を踏まえ、必要な待機場や駐車場等のスペースを確保する。

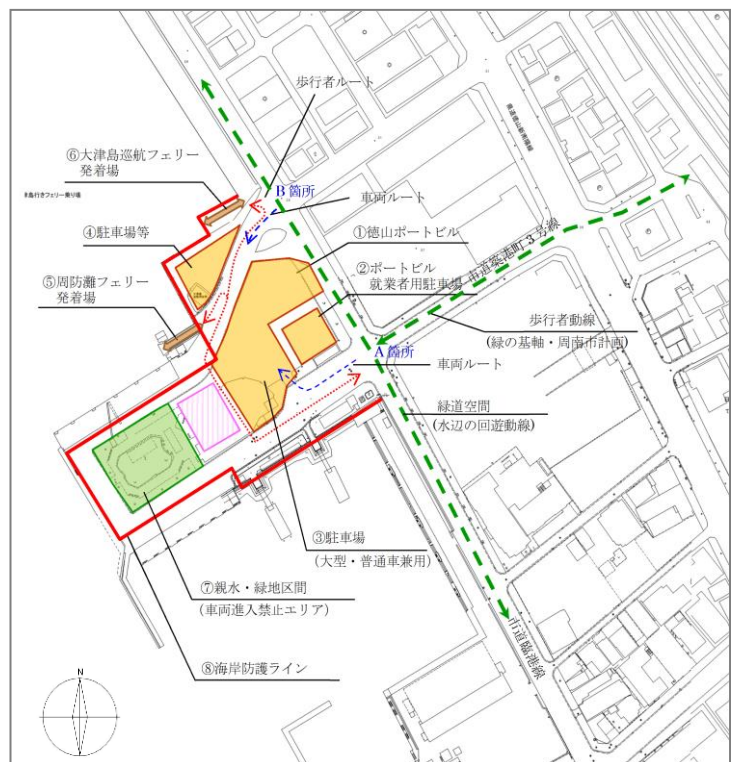


図 5 フェリーターミナル再編整備の概略配置（素案）

1)-4 フェリーターミナル再編整備案の作成

徳山下松港フェリーターミナル再編整備案の施設配置は、徳山ポートビルの改築位置、フェリー駐車・待機場までの大型車両等の動線を比較検討し、最も利便性や安全性に優れた既設ポートビル位置に建替える案を有力案として選定した。

- ・ フェリーターミナル内を旅客船利用者や一般市民がスムーズにアクセスできる動線を確保する。
- ・ フェリーターミナル内の動線となる通路幅（歩道幅）は、2mを確保する。
- ・ 市道築港町3号線および市道臨港線との連続性（歩道含む）を確保する。
- ・ 海岸防護ラインをフェリーターミナル外周に沿って配置する。
- ・ ポートビルエントランスに送迎用やタクシー乗り場を配置する。
- ・ フェリーターミナル出入口の東側（周南市倉庫部分）には大型バス駐車場を配置し、動線を確保する。
- ・ フェリーターミナル北側には、立体駐車場（自走式）を配置し、ポートビル利用者の駐車スペースを確保する。

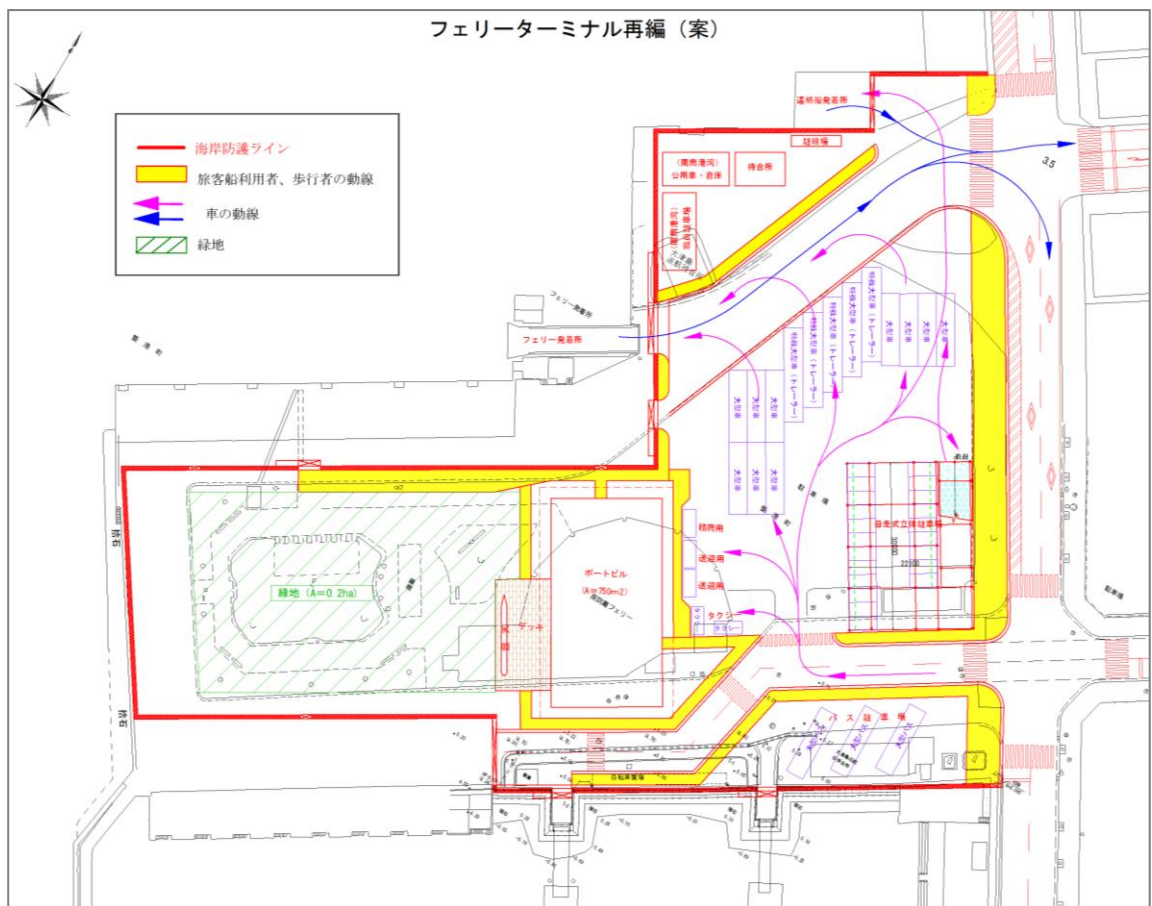


図6 フェリーターミナル再編案の作成

1)-5 旅客上屋規模検討

徳山ポートビルの上屋必要規模の検討は、フェリーターミナル再編計画に必要な建物面積を算出し、1階の床面積を検討する。

まず、ポートビル現状利用者への説明、ヒアリングを実施し、必要面積を一次設定（一次案）した。一次案に対し、再度、現状利用者への説明、ヒアリングを実施し、二次案を設定し、ビル1階床面積を設定するとした。

表 1 ビル1階必要規模・レイアウト二次案の設定条件

施設	必要面積・諸元等	備考
全体面積	・750m ² で設定	・全体面積は、フェリー会社2者、待合ロビー、トイレ、通路、その他施設の必要面積から設定
A社(貸出スペース)	・事務室の全体面積：150m ² ・B社との受付カウンターの前面位置を揃える	・一次案165m ² から150m ² に変更
B社(貸出スペース)	・事務室の全体面積：116m ² ・A社との受付カウンターの前面位置を揃える	・一次案に対する聞き取り調査から110m ² から116m ² に変更
待合ロビー	・面積：222m ² ・着脱式椅子を配置(スペースの利用形態考慮)	・現状のポートビルの待合ロビー面積224m ² と同規模
トイレ	・男子トイレ：大便器2、小便器4、洗面台2 ・女子トイレ：大便器4、洗面台3 ・多機能トイレ：2.2m×2.8m [※]	・トイレ数は、A社に確認し設定 ※多機能トイレ諸元：公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン(国土交通省、H19.7)、p.104
その他施設	・出入口に風除室を設置 ・機械室を設置：50m ² ・情報発信スペースを設置：20m ² ・自販機、ロッカーを配置 ・会議室：64m ² (全体スペースを考慮し設置)	・ロッカーは、観光客の荷物の収納要望のあったB社側に設置
通路	・建物周りに通路を配置：フェリーターミナル内の動線と同じ幅を確保2m [※]	※「道路構造令の解説と運用、H16.2」「増補改訂版 道路の移動円滑化整備ガイドライン H23.8」に準拠

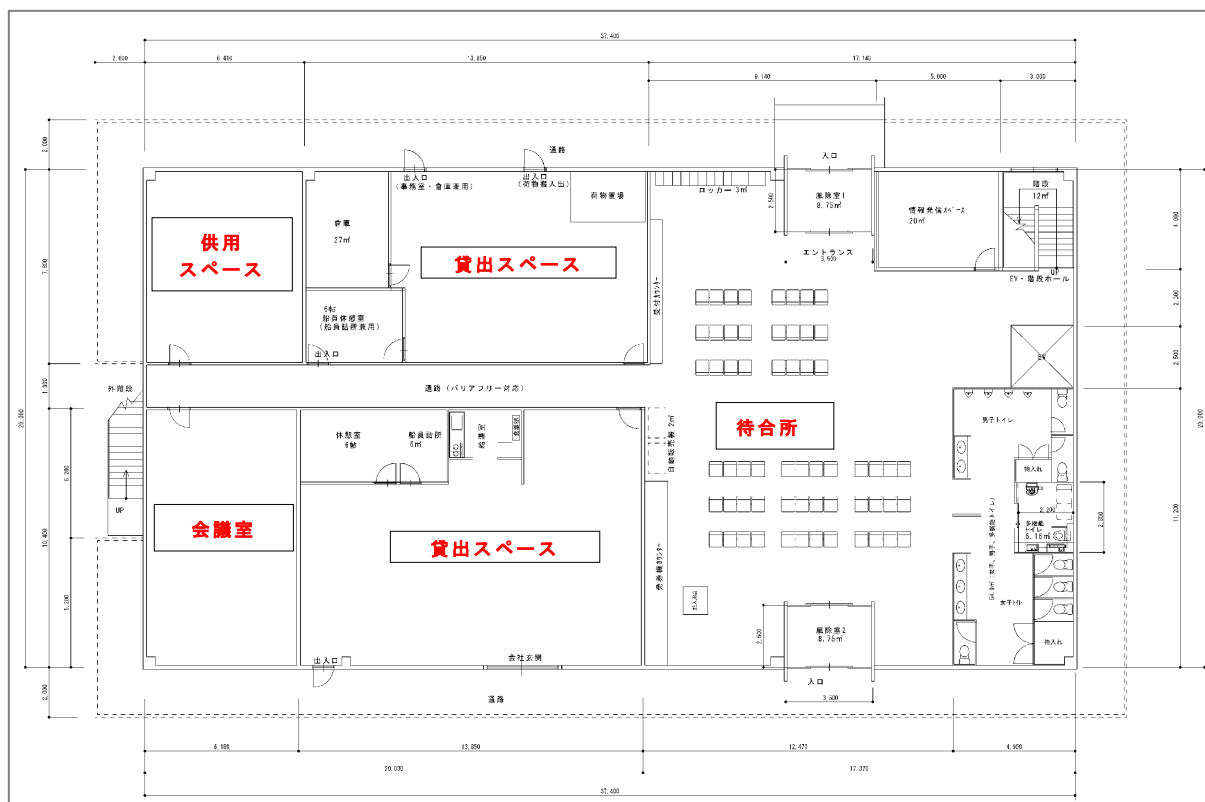


図 7 徳山ポートビル1階(フェリー会社、待合ロビー等のレイアウト案)

④整備効果の検討

徳山下松港フェリーターミナル（徳山ポートビル建替え含む）再編整備による効果は、内航フェリーや離島航路を利用する旅客者等の利便性や安全性の確保、港湾関係者の利便性の向上、民間企業の活性化等が想定される。さらに、周南市が進める「徳山駅周辺整備事業」と連携し、「市民に親しまれる憩い・賑わいの場」に寄与する賑わいの機能の確保等、地域経済への効果の観点からも効果が期待される。以上の効果について、次表に整理する。

表2 徳山下松港フェリーターミナル再編整備による効果

効果の分類	想定される整備効果	効果・連携の対象等
フェリー利用者・港湾労働者の利便性、安全性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト事業との連携による内航フェリーや離島航路利用者の増加 ・ユニバーサルデザイン化による安全性の向上 ・港湾施設の安全性・利便性の向上による大型車両の増加及び運転手の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅客船利用者 ・旅行者等 ・大津島島民等 ・大型車両運転手
	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾施設整備、徳山ポートビル改築による港湾機能の強化、職場環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾関係者 ・ポートビル就労者
集客機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーズや花火大会等、船舶を利用したイベントの増加 ・徳山ポートビル内でのイベント開催、緑地を活用したイベント開催等の機会の増加 ・徳山ポートビル内の貸出スペースや会議室のフェリー利用以外の機能確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・周南市民、近隣・遠方からの来訪者 ・周南市民等 ・ビジネス、オフィス等の利用者
周辺整備と一体となったアメニティ機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・南北自由通路と一体となった駅北からのアクセス向上によるフェリーターミナル周辺の再開発の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・憩い、賑わいの場を創出できる新規企業等
その他の二次的波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリーターミナル情報発信機能の確保による周南市内の観光産業、特産品販売等の活性化 ・周防灘フェリー、大津島巡航の新造 	<ul style="list-style-type: none"> ・周南市との連携強化 ・フェリー会社
周辺施設とのアクセスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・市道築港町3号線（緑の基軸）、市道臨港線（水辺の回廊動線）や港周辺の公園・緑地間のネットワークの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・周南市との連携強化
防災機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸防護ライン（胸壁）整備による高潮や津波に対する安心・安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリーターミナル周辺および背後地

3. 基盤整備の見込み・方向性

① 徳山下松港フェリーターミナル

徳山下松港フェリーターミナル再編計画を基に、今後も継続して徳山ポートビルの状況に応じて検討を進めることとしており、ポートビルと既存緑地の一体的な利活用や、海岸保全施設と展望機能の融合など、港湾施設の利活用に向けた具体について市や地元商工会議所と連携して検討を進めていく。

フェリーターミナル再編整備については、関係者と調整を図った上で、必要な手続きを踏まえ対応していく。

平成27年度において、引き続き港湾施設の配置計画の詳細について検討を進めるとともに、平成28年度以降のフェリーターミナル再編整備に向けた対応についても検討を進め、平成

30年代初めの完成を目標とする。

② 徳山ポートビル

今後も継続して新規入居の募集を行うとともに、ポートビルの賑わいの創出につながる様々な機能の確保に向け、市と県が連携して民間の入居を進め、建物規模を決定していく。

あわせて、屋上の展望機能の確保や待合室のイベント利用や情報発信等など、市や地元商工会議所と連携してポートビル規模検討の中で対応していく。

ポートビル建替えについても、関係者と調整を図った上で、必要な手続きを踏まえ対応していく。

平成27年度において、引き続き建物位置や規模の検討を進めるとともに、建替えについては、平成27年度の検討状況を踏まえ、平成28年度以降の対応についても検討を進め、平成30年代初めの完成を目標とする。

4. 今後の課題

今後、本調査で作成したフェリーターミナル再編計画や徳山ポートビルの施設規模等を詳細に詰めていく段階においてソフト面の検討が重要であり、緑地やポートビルなどの港湾施設を活用したイベントやその情報発信などの企画・運営等について、周南市や民間関係団体と連携して検討する必要がある。

また、駅とフェリーターミナル間の連携を強化するために、市や民間による周辺の開発や動線の強化、周辺施設の一体的な利用が図られるようフェリーターミナルと周辺の公園・緑地等間の動線の強化など、周南市と検討を進める必要がある。

[緑地の再編]

- ・ 野外飲食やイベント等の利用計画を考慮した緑地の地盤高設定
- ・ ライトアップ、夜間利用を踏まえた通路や照明施設等の配置

[徳山ポートビルの待合スペースを利用したイベント]

- ・ イベント等の利用計画に対応した待合スペースの機能の検討
- ・ 関係団体等への利活用のセールス

[徳山駅とフェリーターミナルの連携]

- ・ 駅周辺の活性化に向けた市や民間の開発の検討
- ・ 人の流れを誘導する動線の強化の検討
- ・ 歩道、照明、植樹等の一連施設のコンセプトの関連付け（統一感のある整備）

[既存緑地等との連携]

- ・ 徳山駅や親水緑地、周南市緑地と連携した市民の散策コースとなるような利活用の検討
- ・ 歩道、照明、植樹等の一連施設のコンセプトの関連付け（統一感のある整備）